

令和3年度 地域貢献事業活動報告書

1 事業名称	遠隔システムの活用による学校統合に向けた授業支援
2 事業推進者等	(責任者職名・氏名) 教授・清水 雅之
3 学外の連携機関等	(連携機関等名) 上越市教育委員会 上越市立直江津小学校, 上越市立古城小学校 (担当者職名・氏名等) 教育総務課参事 戸田 正明 校長 長谷川 明寿, 校長 保坂 修 他
4 事業の趣旨・目的	直江津小学校と古城小学校の学校統合に向け、遠隔による学校間交流及び合同授業等の実施 R4年度に直江津小学校と古城小学校は統合することが決まっており、遠隔システムを活用した交流や授業実践を行い、R4年度に向けた児童の人間関係の構築を目的とする。
5 事業活動報告	<p>GIGA スクール事業で構築された環境 (Google Meet) を利用し、オンライン授業を直江津小学校と古城小学校で行い、可能であれば直接交流を行うことを計画していた。オンライン授業の実施は、以下のとおりである。</p> <p>○1年生 6月22日、7月6日 生活:「みんななかよし～自己紹介をしよう」 2時間 ・自分の似顔絵と名前を見せながら、好きな物を紹介する。</p> <p>○2年生 6月15日、12月14日 国語:「夏のことば」 「こんなものがほしいな」2時間 ・夏の言葉の言葉集め、自己紹介 ・こんなものがほしいなと自分で想像したものを紹介し合う</p> <p>○4年生 7月12日 総合:「直江津小の歴史、古城小のお宝を紹介しよう」1時間 ・事前に歴史新聞や古城小のお宝の写真を送り、当日の発表に臨んだ。</p> <p>○5年生 6月22日、11月16日、17日、18日、22日、23日、24日、25日、26日、12月1日、2日、3日 国語:インタビュー活動 算数:「面積」11時間 ・単元のほとんどを遠隔授業で実施した。</p>



<古城小1年生の様子>



<古城小2年生の様子>



<古城小4年生の様子>



<古城小5年生の様子>

	<p>○6年生 6月14日、15日、16日、17日、18日 国語：「パネルディスカッションをしよう」 5時間</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パネリスト（提案者）と司会者は自分のタブレットを使って、大画面に登場し、フロア（聞き手）は、大画面や実際のパネリストを見て、自分の考えを深める。  <p>〈直江津小6年生の様子〉</p> <p>○特別活動 3月9日 委員会活動「来年度の委員長、副委員長を決めよう」1時間</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新委員会のメンバーが集まり、新年度の組織を決める。古城小学校の4年生、5年生は、各委員会の話合いにオンラインで参加する。
<p>6 本事業で得られた成果</p>	<p>R4 年度に統合する2校の小学校において、遠隔システム（Google Meet）を活用した交流や授業実践を行うことで、R4 年度に向けた児童の人間関係のある程度構築できたと考える。新型コロナウイルスの流行により、直接交流が1度しか実施できなかったが、遠隔システムにより交流をしていたことから、顔や名前をしっかりと覚えていることができ、スムーズな会話に繋がっていたからである。</p> <p>数多くの実践により、児童にとっては教室以外の児童に発表の機会が増えることになり、表現力の育成や情報活用能力の育成にも寄与できたと考える。また、教員にとっては ICT 機器を活用する機会が増えることになり、機器を利用する抵抗感が減るとともに、ICT 活用の有効性を感じる機会となった。5・6年生では、単に教室同士を遠隔システムで繋ぐだけでなく、1人1台のタブレット端末を遠隔システムに接続してオンライン自己紹介・学校紹介を行う取組も行われた。実際には回線速度等の問題により、スムーズに行うことはできなかったが、そうした取組によって、どの程度の接続台数であれば、校内で遠隔システムを利用することができるかをある程度把握することもできるようになった。</p> <p>また、ある学級では、児童が家庭にタブレット端末を持ち帰った際に、家庭での遠隔システム利用のテストを兼ねて、同じ時間に宿題を一緒に行うといった取組も行われた。特に会話が行われる訳ではなかったようであるが、互いに頑張っている様子に刺激を受けながら、宿題に取り組む様子が見られ、児童からはみんなで行う効果が語られることになった。</p> <p>2校の教員にとっては、互いに連絡を取り合い、進度の歩調を合わせる必要があるなどの苦労があったが、一方で ICT 活用の面では、他校以上に活用が進むという結果となった。</p>
<p>7 その他(成果物等の名称)</p>	<p>特になし</p>